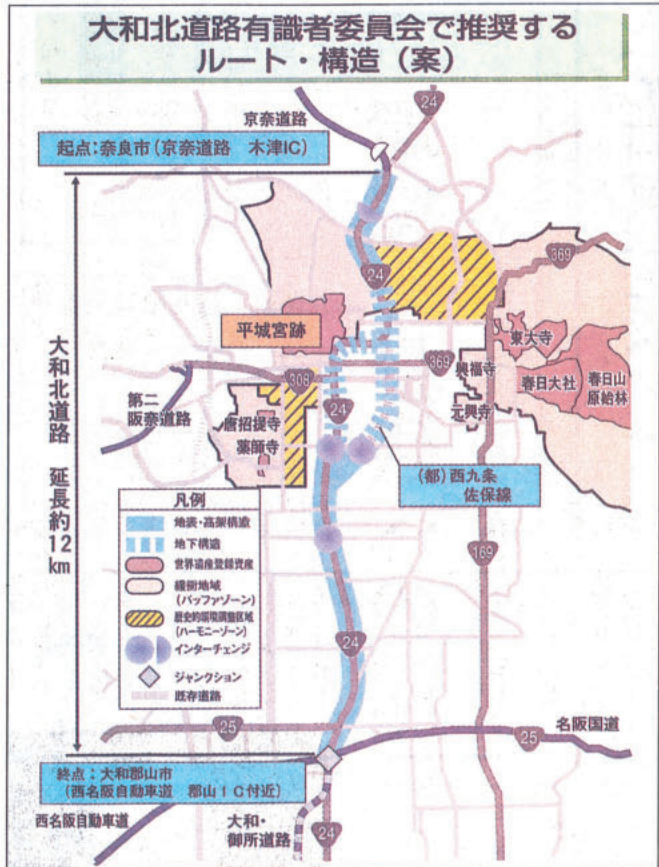


京奈和自動車道 大和北道路シンポジウム



■パネリスト
 笹山 晴生・東京大学名誉教授
 水野 正好・奈良大学文学部教授
 東野 治之・奈良大学文学部教授

■司会
 山下 りら



笹山 歴史ある奈良町、一方では西に広がる市街地、できれば大和北道路の平城京への影響は容認されるべきものであると考えます。むしろ、今回のこうした検討をつづけていける方が、京奈和の発展に寄与するのではないかと考えています。

山下 最後一言お願いします。先方、本日は長時間に渡りましてありがとうございます。

■水野 正好氏
 昭和9年生まれ。同32年大阪学芸大学卒業。滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会文化財保護課を経て、文化庁調査官として文化財行政を担当。その後、同54年奈良大学に転出。文学部長、学長(2期6年)を経て、現在、奈良大学文学部教授。日本文化財学会会長、大阪府環境影響評価審査委員会委員、奈良県古都府政審議会委員、大阪府文化財センター理事長、全国埋蔵文化財法人連絡協議会会長などを務める。

木簡から見てくる歴史と未来

笹山 私が生徒の時にこの世にまだ木簡はなかった。平城宮から木簡が出たのは、これが元になって全国各地から木簡が出てくるようになったわけだ。平城宮は木簡出土の先駆けをなした土地という点で大事だと思えます。

水野 木簡からは八世紀の日本中の国・郡・郷・里の名が分かります。しかもそこに住む人の名前や貢物の名も分かります。一面、国勢調査と同じで当時の政治的天皇の支配構造がよく分かります。今のところ平城宮はまだわすれかかれています。平城宮にまつてはほとんど掘られていません。広大な面積がまた埋まっています。木簡は日本各地の歴史を復元する上で大きな手がかりがあります。木簡 私家は世界遺産や特別情報伝わる度に奈良時代の生活がくわしく復元から少し距離をとり、現

地域づくりの課題と方策

山下 世界遺産をうまく活かした地域づくりの課題と方策について先生方からお話を伺いたいと思います。

水野 奈良県全体を見ると、南北道は本当に未整備と言えます。どうして必要なら南北の道が大和北道路であると理解しています。

英知による文化財と道路の両立を 遺跡博物館で平城宮跡を活かす 21世紀の奈良のあるべき姿

笹山 晴生氏
 東野 治之氏
 水野 正好氏

水野 文化財の側からすれば文化財を壊さないことが一番です。高架あるいは平面では遺跡を損壊してしまふ。地下深く、出入り口部分のみに損壊をせざるを得ない。その程度の発掘調査なら対応できると思います。全線を発掘するとなると面積も広くなかなか簡単には進みません。一番影が少なくて、しかも木簡が豊富に埋まっているところ、これにたいしてどう対応できるか、というのには、「西九条保線地下高架案」の平城宮跡が世界遺産としての新しい朱塗大路にあたる道を求めるかが大切だと思います。地上の24号・JRをどのように扱って平城京の新しい姿にしたいかが問われています。私は通論として、賛成だと論議していますが、自分から奈良をこのようにしていかうという積極的な話はないかと考えています。

笹山 歴史ある奈良町、一方では西に広がる市街地、できれば大和北道路の平城京への影響は容認されるべきものであると考えます。むしろ、今回のこうした検討をつづけていける方が、京奈和の発展に寄与するのではないかと考えています。

世界遺産に生き世界遺産活かす

山下 世界遺産をどうにかに活用していかうか。水野 奈良は、奈良時代の遺跡を損壊してしまふ。地下深く、出入り口部分のみに損壊をせざるを得ない。その程度の発掘調査なら対応できると思います。全線を発掘するとなると面積も広くなかなか簡単には進みません。一番影が少なくて、しかも木簡が豊富に埋まっているところ、これにたいしてどう対応できるか、というのには、「西九条保線地下高架案」の平城宮跡が世界遺産としての新しい朱塗大路にあたる道を求めるかが大切だと思います。地上の24号・JRをどのように扱って平城京の新しい姿にしたいかが問われています。私は通論として、賛成だと論議していますが、自分から奈良をこのようにしていかうという積極的な話はないかと考えています。

遊びに使われていた木簡の例

91	90	89	88	91	90	89	88
取入者	取入者	取入者	取入者	取入者	取入者	取入者	取入者
保佐知身	保佐知身	保佐知身	保佐知身	保佐知身	保佐知身	保佐知身	保佐知身
140-19-3	116-17-3	116-18-1	116-17-3	116-18-1	116-17-3	116-18-1	116-17-3

今日のようなシンポジウムを開催することは、住んでいる皆さんとの合意で工事を進められていくという大事な手続きです。多くの方の英知を集めて道路建設を進めることこそ世界遺産を守る道でもあるのです。今日のこの機会は大変有意義だったと思います。

笹山 木簡は削り屑(くず)というものが非常に多いわけだ。その木簡がいつの時代のものかを調べるためには、木簡が出てきた遺跡の様子、出土した層位をちゃんと見る必要があります。だから、木簡だけが大事なわけではなく、出てきた遺跡も含めて大事なのだと思います。

山下 地域づくりと埋蔵文化財の関係は大和北道路で大事なことは何でしょうか。

水野 文化財の側からすれば文化財を壊さないことが一番です。高架あるいは平面では遺跡を損壊してしまふ。地下深く、出入り口部分のみに損壊をせざるを得ない。その程度の発掘調査なら対応できると思います。全線を発掘するとなると面積も広くなかなか簡単には進みません。一番影が少なくて、しかも木簡が豊富に埋まっているところ、これにたいしてどう対応できるか、というのには、「西九条保線地下高架案」の平城宮跡が世界遺産としての新しい朱塗大路にあたる道を求めるかが大切だと思います。地上の24号・JRをどのように扱って平城京の新しい姿にしたいかが問われています。私は通論として、賛成だと論議していますが、自分から奈良をこのようにしていかうという積極的な話はないかと考えています。

調整する両者兼ね合い、討委員会の立場です。また、平城京やその周辺でも木簡は存在する可能性がかなりあります。ですから、繊細な配慮が要求されると思います。また木簡と遺跡とを切り離すと自身の本来の価値が引き出せません。あくまでも遺跡との絡みで木簡は存在しているのです。木簡とついても、墨の点二つものもありません。奈良文化財研究所が三万七千点くらいの木簡のデータベースを公開しております。これくらいがたいい読めて役立つ数です。

笹山 木簡は削り屑(くず)というものが非常に多いわけだ。その木簡がいつの時代のものかを調べるためには、木簡が出てきた遺跡の様子、出土した層位をちゃんと見る必要があります。だから、木簡だけが大事なわけではなく、出てきた遺跡も含めて大事なのだと思います。

東野 奈良は京都など比べて、歴史が連続していない部分があると思います。例えば、平城宮跡なら遺跡博物館のような形で整備するのが向いているのではないのでしょうか。その中で奈良の特色を活かす方策を今後ともいくべきで、そのために我々が英知を出し、新しい解決の道を探るべきだと思います。

水野 今、奈良の市街地は、全体が西へ西へと移りつつあります。これでは平城京は完全になくなってしまう。家が建ち込めば平城京は何も残らない。市街化を止めることはなかなか難しいことですが、果たして何が二十一世紀の将来に必要なのかを考えると、木簡の活用は非常に重要な手がかりになるのではないかと考えています。

世界遺産のまちの未来を考える
 かけがえのない資産とともに

未来へ繋ぐ大和北の道

■笹山 晴生氏
 昭和7年生まれ。同30年東京大学文学部国史学科卒業、東京大学大学院人文科学研究所国史学専門課程博士課程修了。東京大学文学部助手、名古屋大学教養部講師、助教授、東京大学教養学部助教授、同大学文学部助教授を経て同60年教授。のち学問院大学教授となり平成15年退職。東京大学名誉教授(文学博士)。史学会理事長、木簡学会委員などを務める。現在、大宰府史跡調査研究指導委員会委員長、文化財建造物保存技術協会理事。